

【村君支部】

市民座談会懇談内容（概要）

令和4年11月9日（水）18:30～20:00

①今後の消防団（水防団）の活動について

（質問）

人口減少や高齢化に伴い、消防団の人材確保が困難になっていくと考えられる。小中学校の再編計画のような、消防団の再編成や今後の災害等への対策についての考えは？

（回答）

全国的に消防団員数は減少傾向ある。当市も直近の5年平均は約212名、本年4月は207名でスタートし、現在は210名、充足率で93.3パーセントとなっている。充足率は、県内でも19位と上位の充足率。村君地区は96パーセントという高水準での充足率で自治会、消防団員の皆様のご協力によるもの。

羽生市全体の再編成としては、村君地区をはじめ他地区も団員をおおむね確保している。再編成は現在のところ検討していない。

②市職員の危機管理意識について

（質問）

自主防災組織が10年程度前から始まったが、コロナ禍ということもあり、活動がされておらず、地元の市職員の参加も見られない。

有事の際、行政との連絡などの対応ができるのか心配しており、どのような危機管理指導を行っているのか教えてほしい。

（回答）

市の自主防災組織は、74自治会すべてに自主防災組織が組織されている。

防災訓練は各地域で実施されているが、コロナ禍のため、この2年間は実施が減っている。村君地区では、令和4年6月に避難所開設訓練を行い、35名に参加頂いた。令和2～4年度の3年間で市内9か所で実施してきたところ。

避難所33か所には、それぞれに担当職員2名ずつ配置しており、事前に避難所の開設、備蓄品の取り扱い等を説明している。

防災を始め、危機管理には、普段から「顔の見える関係」が重要。自治会と自主防災組織の両方を地域振興課で所管しており、今後も自治会の皆さまに協力いただきながら、「安全で安心なまちづくり」を進めていきたい。

(質問) 洪水となった場合の避難が心配。高齢者向けに早めの避難情報の提供や、市のバスを利用するなどといった対応は出来ないか？また、物流会社なども拡張の話があり、活用できないか？

(回答) 気象状況に応じて、防災行政無線やメール、LINEなどで情報提供する。また、電話一斉配信サービスも行っている。さらに、防災行政無線のデジタル化に合わせ、防災アプリの導入を予定している。

バス会社とも防災協定を結んでおり、避難の際には利用できる。高齢者などには、早めに避難情報を提供していく。避難指示の際は、当方で文字を入力すると、NHKなどのテレビにテロップなどが表示される仕組みとなっている。物流会社の活用は、当方でも把握しており、今後検討していく。

③過疎化に向かっている村君の将来像について

(質問)

移住者への取り組み、起業家への対応、高齢住民への生活支援など

(回答)

村君地区の活性化は、地区の多くを占める農地の活用、農業振興が重要。現在、下村君、堤、常木地区において51.4haのは場整備事業を進めている。

ほかにも、スマート農業の導入や6次産業化等の付加価値を生む農業経営などへの支援も行っていきたい。

また、地区には永明寺古墳やスカイスポーツ公園、また利根川の雄大な景色などの名所があります。市では公園を活用した「とまり木パークプロジェクト」という賑わいづくりの取組を実施している。

起業家へは、「創業支援補助金」を平成28年度から制度化し、最大100万円までの補助金を交付している。現在、村君地区在住の方もセミナーを受講しており、市内での操業に向けての相談を承っているところ。

また、高齢者向けには、緊急通報システム、配食サービス、日常生活用具給付などがあり、広報などでも周知している。また、移動販売も1月から、週に1

回程度で開始できると思う。

困ったことに対しては、地域包括支援センターがあるので、相談して頂きたい。

【その他】

(質問) ヤードの扱いについて。村君地区でも、数年前に火災があったが、申請や行政指導、立ち入り検査などの状況は？

(回答) 消防として、立ち入り検査は行っていない。後日、回答する。

(事務局による回答)

市消防本部では、火災予防の観点から、現在市内に 21 か所のヤードが存在していることを把握しています。

ヤードの設置に係る手続きとしては、埼玉県警への届出が必要です。(埼玉県ヤードにおける自動車等の適正な取扱いの確保に関する条例) その他、敷地内で自動車等(自動車、自動二輪車、重機、農機具)の解体を行う場合、土地の農地転用や建物の建築を行う場合などは、県の各機関や市役所に、それぞれ許可を申請する必要があります。

ヤード内で犯罪や法令違反があったときは、主に県警が立ち入りを行います。状況に応じて県や市の関係課が立ち会うこともあります。